



開院への感謝とさらなる協力を誓いがっちり握手

東日本大震災で被害を受けた志津川病院が、南三陸町から登米市旧よねやま病院（現よねやま診療所）へ入院機能を移転し治療を再開することに伴い6月1日、旧よねやま病院で開院式が行われました。

志津川病院は、3階建ての旧よねやま病院本館を借り、1階を外科と整形外科の外來、2、3階を病棟として一般病床27床、療養病床12床の計39床で入院患者を受け入れ治療が行われます。

開院式には志津川病院の医師・看護師など関係者約60人が出席。新しい「志津川病院」のスタートを祝いました。式では、佐藤町長が「施設の提供や調整など、登米市の皆さんには心から感謝します」と感謝の言葉を述べた後、布施市長が「今後も町域を越えて連携し、南三陸町の医療環境の整備に協力したい。笑顔で患者を迎えられる病院になることを期待します」とあいさつを述べました。

## 機能を移転し 医療を再開

「志津川病院」が旧よねやま病院で新たに開院



「再開できたのは登米市のおかげ」と述べる佐藤町長



特産物や食材を求め、にぎわいを見せる販売ブース

東日本大震災で観光事業が停滞した状態にある登米市・南三陸町両市町の観光物産振興を図ることを目的に、6月11・12の両日、みやぎの明治村登米町を会場に「登米・南三陸観光物産復興祭」が開催されました。

復興祭の開会式では、市観光物産協会の阿部会長が「この復興祭を契機に、両市町相互に協力し合い、一日も早く復興できることを願っています」とあいさつし復興への思い述べました。



柴田三兄弟による力強い津軽三味線の演奏

復興祭では、登米市や南三陸町を始め、栗原市、石巻市、気仙沼市などの企業や農産直売所などが約40ブースの店舗を出店し、海産物や新鮮野菜などを販売し大勢の買い物客でにぎわいました。



ラジオを片手に、登米町内の名所をウォーキング

## 観光の復興に向け力強い第一歩

### 登米・南三陸観光物産復興祭

センター、高倉勝子美術館での企画展や高倉勝子先生とのお話し、登米南三陸の写真を集めた復興写真展、H@!FMチャリティーウォークなどのイベントも多数開催されました。

会場には、両日とも多くの来場者が訪れ物産や観光、イベントを思い思いに楽しむなど、観光物産広域連携復興の大きな第一歩を踏み出した復興市となりました。

## 「祈り・再生」第7回登米市民俗芸能大会

市内に伝わる民俗芸能の伝承活動を行っている20団体が一堂に集い、民俗芸能を披露する「第7回登米市民俗芸能大会」が、下記により開催されます。

今回は、民俗芸能の保存伝承と東日本大震災犠牲者への「慰霊」、避難者へ「心の安らぎの提供」を目的に開催されます。当日は南三陸町などの避難者を招待し、炊き出しも行われます。

神楽やお囃子など、各団体が伝承している素晴らしい民俗芸能が披露されますので、市民の皆さんのご来場をお待ちしています。

【日時】 7月17日(日) 午前9時30分から午後3時30分まで

【場所】 中田農村環境改善センター 【入場料】 無料

【出演団体】▶浅部法印神楽(中田) ▶上町法印神楽(豊里) ▶加賀野神楽(中田) ▶館神楽(中田) ▶本宮神楽(中田) ▶山ノ神神楽(迫) ▶岡谷地南部神楽(登米) ▶細野神楽(東和) ▶嵯峨立神楽(東和)▶赤谷神楽(石越) ▶長下田神楽(石越) ▶畑岡神楽(南方) ▶佐沼鹿踊(迫) ▶小島願人踊(中田) ▶とよま囃子(登米) ▶嵯峨立甚句(東和) ▶芦倉獅子舞(石越) ▶巻おいとこ踊(中田) ▶大綱おいとこ踊(迫) ▶森邑おいとこ踊(迫)



【問い合わせ】 教育委員会生涯学習課 ☎0220(34)2698

### 登米市市政モニター (敬称略)

No.	氏名	町域
1	西城 洋市	迫
2	蓬田 恵美子	迫
3	佐竹 和江	迫
4	岩渕 文昭	登米
5	阿部 さち子	登米
6	遠藤 克美	東和
7	相澤 米子	東和
8	千葉 貞夫	中田
9	日野 英俊	中田
10	千葉 真理子	中田
11	千葉 真喜子	豊里
12	菊地 澄美子	豊里
13	後藤 都子	米山
14	渡邊 信一	米山
15	千葉 芳照	石越
16	阿部 啓子	石越
17	三浦 眞	南方
18	千葉 江里子	南方
19	大森 敏雄	津山
20	佐藤 貴美子	津山



「ぜひ多くの意見を」と委嘱状を交付

市では、市民皆さんの市政に関するさまざまな提案や意見を、市政に取り入れるため「市政モニター」を設置しています。

## 市民参加のまちづくり 市政モニターを委嘱

今年度の第1回会議が6月3日、迫公民館で開催され、30代から70代までのモニター20人に布施市長から、委嘱状が交付されました。

市長は「皆さんには、会議への出席だけでなく、日常生活で気付いた事などをどんどんお寄せいただきたい」とあいさつしました。

会議では、各モニターの自己紹介の後、担当者からモニターの役割などについて説明が行われました。

意見交換では、市政に対する意見が出され、とりわけ東日本大震災における情報伝達

【問い合わせ】 総務部市長公室 ☎0220(22)2090

や道路復旧などについて活発な意見が交わされました。モニターへの任期は1年で、今後は、会議への出席や市政に対する要望、地域問題などの報告、アンケート調査への協力などを行っていきます。



自己紹介と市政への思いを話すモニター